

2026 年度第 1 回一宮市子ども読書活動推進懇話会会議録

- 1 開催日時 2026 年 8 月 5 日（水）午前 10 時～11 時 25 分
- 2 開催場所 中央図書館 6 階 多目的室 1
- 3 出席者 懇話会委員：10 名 事務局：7 名
- 4 議 題
 - （1）一宮市子ども読書活動推進計画の成果について
 - （2）一宮市子ども読書活動推進計画（第 5 次）（案）について
 - （3）その他
- 5 開 会 （事務局が開会を宣言）

「子ども読書のまち宣言」唱和（先導は副会長）

館長挨拶

会長挨拶
- 6 会 議 （要旨）

（事務局） 議題（1）について、推進計画の進捗状況及び目標値、取り組み状況を説明。

（会 長） 「推進計画の進捗状況及び目標値」の一番上のブックスタート事業における絵本の配布率で、ほぼ 100%という数字ですが、2023 年だけが 99.9%というのは、未受診者で訪問したけれども、本が渡せなかったという方があったのか。

（事務局） 4 か月児健診の会場には来たが、ブックスタートの絵本をお渡しできず、その後、連絡をしたが、お渡しできなかったため 2023 年度は 99.9%になっている。

（会 長） 資料の「推進計画の進捗状況及び目標値」と「取り組み状況」の整合性がないのではという疑問がある。例えば 2－（1）学校の役割で児童生徒 1 人当たりの 1 か月間の読書冊数とあるが、これに対する「取り組み状況」施策コード 4212 というのは「家庭や地域と連携して取り組む読書活動の奨励」になっていて、「PTA による読み聞かせの実施」というのが具体的な事業内容になっている。ここから目標値の読書冊数と、児童生徒の 1 か月当たりの不読率がどう考えても結び付かない。もう少しこの具体的な事業内容のところに、例えばこの読書冊数だとか不読率という数字を導き出すようなものを入れるといいのではと思う。

（事務局） 具体的な事業内容の部分について、担当課の学校教育課にも確認して検討する。

（会 長） 読み聞かせをやっている小学校は聞いたことあるが、中学校でもやっているか。

（委 員） 全校ではないが何校かある。朝の読み聞かせでお母さんたち、お父さんたち、おじいちゃんおばあちゃんなど家の方や、ボランティアの方がやっている。

（会 長） 中学生も 3 年生になってくると受験が控えてきて、先ほどの不読率の上昇の中でも、やはりテスト対策で、読書活動の時間が削られているという説明があったので、できれば目標値として不読率ゼロというのは一番目指すべき数値だが、現実的にゼロはどうかと思う。あくまでも目標だから、この第 5 次を作るときにその辺の数字の目標値の設定も検討課題と思う。

（委 員） 私は主任児童委員で、ブックスタートに参加している。4 か月健診のときに本をお渡しするが、年に数人、一宮市民じゃない人が里帰りなどの関係で健診に来られる方がいて、その方には本を渡さない。そうすると厳密に言うと、この 4 か月健診のときに渡しているのは 100%じゃないと思う。

あと、そのことでお願いしていいのかわからないが、すごくいいことをやっている

ので、一宮市の方じゃなくても健診に来たら、できればお渡しして欲しい。

(会 長) いわゆる在住者じゃなくても、里帰りの形で健診というのは受けられるのか。

(委 員) 今、よそで住んでいるけど、どうしてもそこで健診が受けられないから、4か月健診は一宮市で受けるという方がたまにみえる。

(会 長) そんなに数ある話じゃないので、一度ご検討をお願いします。

(事務局) ブックスタートでお渡しするものは図書館の予算で購入しているものになるので、一部の市外の方にお渡ししていいのかというところがある。

(会 長) ブックスタートをやっている方にしてみれば、確かに渡してあげたいという気持ちは十分わかるが、予算的なことも当然である。初めての絵本だから、基本的にはすべての方にとは思うが、やはり市外の方に関しては、難しいということです。

(委 員) 学校の役割の中の中学校で、不読率が 8.4%まで上がってきているのに対して、図書館としては、学校教育課と連携してこれを下げていくということとはできないのか。

(委 員) 学校からの報告の中で、在籍の人数で本を読んでいないという数字が出ているのであれば、不登校の子どもは必ず不読率のなかに入ってしまう。そういう数値の出し方であれば、0%の目標はなかなか難しいと思う。

(会 長) 不読率というのは全く読まないという割合。当然この上の①の読書冊数と連動しているということですね。

(委 員) 6月に1学期の読書週間とか読書月間という取り組みをし、6月1か月の間に、本を何冊読んだかという調査をする。不登校の子どもも在席人数には入っているので、不読率としてあがってきてしまう可能性は十分ある。

(委 員) でも同じ調査の仕方でも不読率 0.1%だったときもあるということですね。

(会 長) 2023年度は小学生が 0%、中学生でも 0.1%。

(委 員) その年度はきっと働きかけがあったのだろう。教育長なのか主事なのかかわからないが、担当者が各学校の図書館の集まりの中でそういう話をして、頑張りましたよというようなことがあったのでは。冊数的には上がるかもしれませんが。

(委 員) なかなかこの調査はやっぱりアバウトな調査であるというか、数字だけで一概にゼロだからいいとか、0.1だからいいとかいうのは、どうなのか。10ページぐらいの絵本でもハリー・ポッターのような分厚い本でも、同じ1冊です。高学年なら、信頼関係があれば、それはだめと言いますが、やっぱりある程度、何ページの本というふうに指定してしまうと、だんだん厳しくなってくるので、子どもたちの本離れに繋がるかもしれない。だから、数字だけにとらわれると現場は大変難しいかなと思う。

(委 員) この①の児童生徒1人当たりの1か月の読書冊数は6月のものか？

(委 員) 6月です。

(会 長) 今年の6月に実施された調査がどういう傾向か、この8.4%という増加傾向がどうなっているかを知りたい気がする。また次回までに聞いてほしい。

(委 員) 逆に、2023年度の0%というのは何かあったのかと聞いてもいい。2023年度だけ低いから学校から何かされたのかということ。現場の方で何かそういう声掛けをしたとか、何かやっぱり増長ポイントがあったのかということ。

(事務局) 議題(2)について、現段階の子ども読書活動推進計画(第5次)案について説明。

(会 長) 今最後に事務局の方からあった目標値の数値、具体的な数値ではなく、現況値以上という説明ですが、前回のときに配られた愛知県の第4次子供読書活動推進計画改

訂版の概要版の3ページの数値目標というところで、現況値以上という表現が使われている。それについて今お話があったが、今回の第5次計画については、この表現ではなくて具体的な数値でいくという話でいいか。

(事務局) 今のところ数値を入れてあるが、現況値以上という目標値にしてもいいのではというところで、皆さんのご意見をいただけたらと思う。

(会長) この場合の現況値というのは、いわゆる基準となった2026年からということか。

(事務局) この表にある一番左側の2025年度の実績値のことである。すべてを現況値以上にするのではなくて、今提案しているのは上から2つ目の地域の役割のところ、児童館、保育園への配付の目標のことです。

(委員) 本の受け取りを拒否するところが増えてきているという、その理由は何が考えられるか。

(事務局) 児童館、児童クラブに本を置く場所がないということと、お配りする本は図書館で不要になった本が多く、やはり児童館、児童クラブが欲しいと思っている本を選べるわけではないというのも理由の1つかもしいない。

(委員) 今図書館で、家庭で読まなくなった絵本の寄贈をお願いしますというのをやっている。その本も基本的にはこういう児童館や児童クラブに行くはずのものか。それも配付する箱の中に入れて、それでいらないと言われて、余った本は図書館ではどうしているのか。

(事務局) 事前に受け取りを希望されるかどうかをお聞きして、準備する箱数が決まる。その年によって冊数が変わってきて、ダンボール2箱分になるときもある。

(会長) 除籍本と市民からの寄贈本と合わせた形で、希望された園の数だけに分配するということか。

(事務局) そうです。

(委員) 児童館によってはお断りされるところもあるとのことだが、あまり蔵書に代わり映えがないと余計に子どもたちが読まないのでは、例えば置く場所がなければ30冊と30冊を交換するとか、そんなお勧めなどはしていないか。

(事務局) 特にそこまではしていない。

(委員) 児童館の本は、すごく古くなって、日に当たって、本当に背表紙も読めないような本が置いてあったりするので、そういうのと交換して少しでも新しい本を入れてもらえれば、子どもたちも本を読むのかなという気がする。

(委員) 交換じゃなくて児童館の中で、余りにも古くなったものは廃棄して、新しくもらえばいい。それは各児童館にお任せみたいな感じになると思う。

(委員) 児童クラブと児童館は子育て支援課の管轄。保育園の場合は保育課で、図書購入費という予算が毎年必ずあり、毎年新しい本を買って、各園にも新しいものが入ってくるが、子育て支援課で予算化はしていないのか。もし予算化されれば、毎年少しずつでも新しいものを購入できると思う。

(委員) 目標値を100%としてしまうと、図書館としても厳しいと思うので、さきほどの「現況値以上」というのがいいような気がする。

(会長) いらないと言うところは毎年いらないと言われるのか。

(事務局) 毎年希望される場所や1年おきというところもあるが、全く希望されないところもある。

(会長) 全園に周知して、希望を募るというやり方か。

(事務局) そうです。

先ほどの子育て支援課の図書の購入の関係で、「取り組み状況」の4234の上から2つ目、児童館・児童クラブの図書資料の充実というところで購入冊数とか書いてある。おそらく予算があって、1施設当たりの購入冊数の平均冊数が載っているの、新しい本を買っているということだと思う。上が子育て支援センターの図書資料の充実、その下が児童館、児童クラブで、予算額決算額が載っている。右側に購入冊数の平均が載っているの、1施設あたり13冊ぐらいは新しいものを購入しているのではと思う。

(委員) 特に児童クラブは、施設の中に庭がなく、室内での時間が長いから、やっぱり子供たちも、おもちゃで遊んだりゲームしたりすると思うが、新しい本があったりすると、そこにいる子は気になったりすると思うので、いい機会になると思う。

(会長) ささいなことだが、第5次案で10ページの下の表の中で、リサイクル本配付事業の「配付」という字は、この字を使うか。他は「布」を使っているが。

(事務局) 今回、統一しようと思っている。相手が決まっている場合は人偏の「付」で、不特定多数の場合は「布」の方に修正しようと思っている。ですから先ほどまで見ていた目標値案のところも、ブックスタート事業における絵本配布率も人偏の「付」に変える。

(委員) 21ページですが、今の図書館の写真のところにはほたる号の写真を入れてもいいかと思う。

(会長) 市図書館の整備・充実。そうですね、ほたる号のことも入っているから。

(事務局) ほたる号は別のページのところで入れようと思っているが、第4次計画の冊子にもほたる号の写真は載っている。ただ、かなり古い写真なので取り直しはしたいと思っている。第4次計画の冊子の21ページです。

(会長) それでは意見も出尽くしたようですので、議題2はここで閉じます。議題3その他について事務局からご説明をお願いします。

(事務局) 次回の第2回子ども読書活動推進懇話会の開催につきましては、9月11日金曜日10時から、会場は本日と同じくこの中央図書館の多目的室1を予定している。本日開催通知をお配りしましたので、よろしくお願いします。
以上をもちまして本日の会議を終了します。